

長野 軽井沢
Nagano Karuizawa

人生に

こんな夏があっても良くない？

そろそろ夏がくる。

いつものメンバーで、楽しい夏を過ごす？

それもいいけど、

今年はもっとドキドキする夏にしてみませんか。

これは、旅をしながらその土地の人々や課題と出会って
世界をちょっとだけ良くして帰る旅。

朝日を浴びながら地元のおばあちゃんと友達になったり、
マラソンのゴールテープを握ったり。

ボランティアは、普通じゃできない特別な経験や
まだ見ぬ仲間を連れてきてくれる。

知ることで、関わることで、

いつも見ていた世界が、この瞬間から変わり始める。

そんな経験を後押ししたくて、U25限定・旅費無料。

今年は、君がまだ知らない夏に、飛びこんでみない？



長野 軽井沢

Nagano Karuizawa

緑が薫る森の中で、
動物と共に暮らす旅。

緑に囲まれた避暑地として知られる軽井沢。
美しい森の中で、人々は
多様な野生動物と共に暮らしてきました。
一方で、ツキノワグマとの共生においては、
時に人間へ被害が及んでしまうこともありました。
ここでは「ベアドッグ」という、大きな声で
吠えることで、クマを傷つけることなく
森へと帰す犬たちが活躍しています。
人も動物も心地よく暮らせる未来に向けて、
自然の中で、動物たちの生活に寄り添いながら
9人の仲間と4日間を過ごしてきました。



軽井沢レポート

2023.09.05-09.08

旅する
ボランティア



まだ暑さが残る9月初旬の朝、緊張した表情で東京駅にあつまった9人。

下は18歳、上は24歳。多種多様なバックグラウンドを持ったメンバーたち。

「この服で、大丈夫ですかね」
「晴れるといいですね」
待ち時間で、ぼつりぼつりと
会話がはじまっていく。



3泊4日、どんな日々が、待っているのかな。
「旅するボランティア」、軽井沢の旅がはじまる。



実はこの日、FM軽井沢への電話ラジオ出演が決まっていた。パーソナリティの方に「軽井沢はどんな印象ですか？」と聞かれると、元気よく「お金持ちが別荘にしているイメージです！」と答えた高校生メンバー。番組もバスの中も盛り上がり、重大な任務を終えた。



最初の目的地は、軽井沢アイスパークでのカーリング体験。カーリング場は5~6度で冷蔵庫の中のように寒い。ジリジリと暑さが迫る真夏に、しっかりと着込んでチーム戦で戦う。





「おお、すごい！」
未経験で、最初は立っただけで大変だったが、徐々に上手になっていく。
さっきまで、初めましての9人もカーリングが終わる頃にはすっかり仲良くなっていた。

カーリング中、隣のレーンのプレイヤーが手話で指示を出し合っていた。
終わった後に、あるメンバーがかけより、手話で話しかけた。実は彼もまた空手のデフリンピックに出場している選手だった。



「すごい！」 「なんて言ってるの?!」手話で談笑する姿をみて、一同は興味津々。彼の勇気が橋になって、軽井沢の人と会話を楽しんだ。最後は彼が教えてくれた“I LOVE YOU”の手話で、記念撮影。





「血液型なに？」雲場池を散策しながら、お互いのことを知り合う。水の流れる音、木々の擦れる音、虫の音が良いBGMだった。



2日目の朝。動物や自然と触れ合える『ピッキオ』で、野鳥の森ネイチャーウォッチングに参加。2時間軽井沢の自然の中を歩く。双眼鏡の使い方を教わって、準備万端！





道を見ると、
砕けた木の実がたくさん落ちていた。
昨夜、リスが食べたそう。
すぐそばに、生き物の生活を感じる。





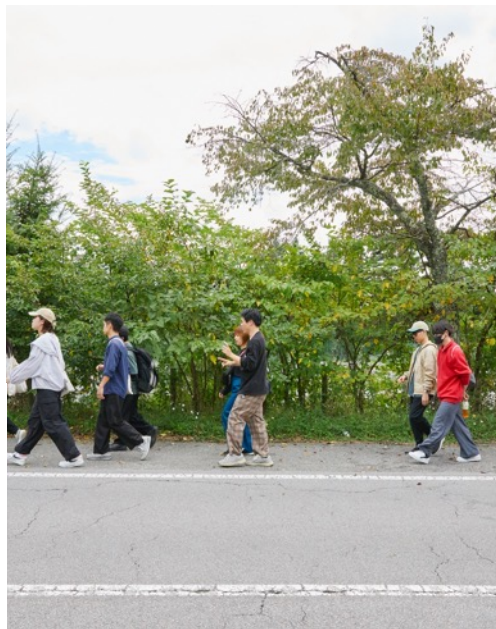
→
クマ
と
同
じ
150cm!

「これ、なんだと思いますか？」ガイドさんが小さな青い果実を指差す。匂いを嗅ぐと梨の匂いが。恐る恐る口にしたメンバーだが「すっぱーい！」と思わず渋い顔。





「別荘地はクマに遭遇しやすい場所です」と教えてくれたのはピッキオの田中さん。市街地とクマが住む森との間にあり、クマがたびたび出現し人間に危害を与えてしまうこともあったそうだ。



そこで軽井沢では「人間の手では開けられるが、クマには開けられないゴミ箱」を開発した。軽井沢で1つ目のボランティア活動は、そのゴミ箱維持のための清掃のお手伝いだ。



「にこぱ」「十五夜」軽井沢のクマには1頭ずつ名前がつけられている。人と鉢合わせてしまわないように、クマの動きをリアルタイムで把握しているそう。作業の合間にも、街とクマについてのエピソードを教えちゃって、清掃にも身が入る。



「小さい頃から、生き物に触れることも重要なんです」と田中さん。

例えば、虫に出会ったことのない都会の子供も、軽井沢で動物や昆虫に触れると「生き物って、こわくないんだ」と感じる。その気持ちがあれば、大人になった時に動物に対して簡単に排除しようとは思わなくなる。共生は、専門家だけではなし得ない。

一人ひとりの経験や価値観で成り立つんだと感じた。





最初はゴミ箱を触ることに少し戸惑った。しかし、最年長のメンバーが率先してゴミ箱の中に入り、磨き始める姿を見て、徐々にみんなでも綺麗にしはじめた。



「ピカピカ〜！」途中雨が降ったりもしたけど、時には冗談を言い合いながら作業し、最後には見違えるようなゴミ箱が完成。達成感で誇らしい気持ちになった。



夜はムササビウォッチング。「ムササビは、どれくらいの大きさだと思いますか？」そう尋ねると、手のひらサイズで答える人から、大きく手を広げる人まで、想像しながら期待を膨らませる。



木の上をじっと見上げて、首が痛くなってきた頃、空に何かが見えた。その瞬間、座布団大のムササビがフワッと空を舞う。ほんの、一瞬の出来事だった。

ムササビは日が沈む頃に起きて、森の中に旅に出る。そして、夜明けと共に眠りにつく。この地球上には人間とは全然違ういくつもの生活が行われていることを実感する夜だった。



3日目の朝。秋が近づく軽井沢。

木の実、森に住むクマたちにとってたいせつな栄養源。夏に痩せてしまったクマたちは、どんぐりや栗を食べて体にたっぷり栄養を蓄えてから冬眠に入る。



もし木の実が凶作だと森のクマたちは食べるものを求めて人間の住む町に降りてきてしまうから、クマと人間の共生を守るためにピッキオの職員の方々は、あらかじめ夏の終わりにどんぐりや栗の豊凶調査を行っている。



豊凶調査の前に、イレギュラーイベントが発生。

道路に大きくせり出した大木の枝を、剪定することに。

ピッキオの職員の方々に見守られながら

ハサミで枝を切るメンバー、梯子を支えるメンバー、車が来ないか確認するメンバー。

出会って3日とは思えない、笑顔の連携プレー。

剪定が終わり、開けた道を、バスが通るとメンバーたちから歓声が上がった。



そんな様子を見ながら、職員の方が呟く。

「こんなに楽しんでやってくれるなんて。なんでも楽しめると、才能だよなあ」

突然のことでも、みんなで笑ってやったら、あっという間に楽しい思い出に変わるんだ。

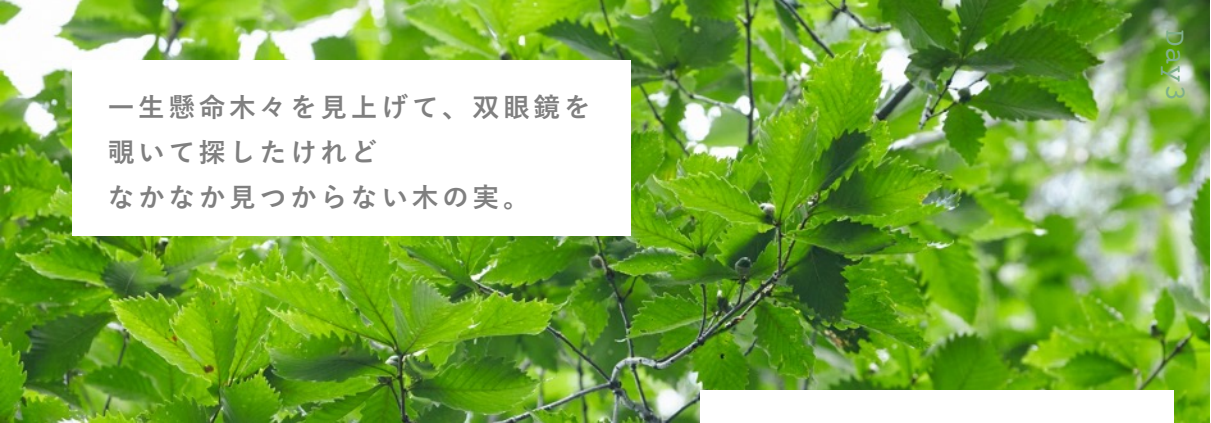
「この木の努力を自分が評価してあげる、という気持ちで『どんぐりはきっとそこにある!』と思って、探してみてください」

ピッキオの職員さんに教えていただきみんなで双眼鏡越しに、どんぐりを探して数える。




一回の観測時間は16秒。
静まり返った森の中、聞こえてくるのは風にそよぐ木の葉の音、遠くでさえずる鳥の声。






一生懸命木々を見上げて、双眼鏡を覗いて探したけれどなかなか見つからない木の实。



今年が凶作なのか、みんなが見つけられないだけなのか。「どんぐりが見つかったら本当に嬉しくて、クマの気持ちになった！」というメンバーも。



印のついた木を探して、16秒木の实を数えて、記録する、シンプルな作業は毎日やってもなかなか成果が見えにくいそうだけれど、軽井沢の自然を守るために欠かせない、大切なお仕事。



帰り道、空を見上げ続けた首はちょっと痛かったけれど、心地よい疲労感に包まれながら、みんな車窓の木々を眺めていた。



この旅が終わって、バラバラな毎日に戻っても街中で、木々を見上げたときどんぐりを見つけたとききっと、想いをはせるだろう。軽井沢の森とクマと、みんなのこと。



豊凶調査のあとは、白糸の滝を探索。みんなで軽井沢グルメを食べたり、占いをして「当たりすぎ！」と盛り上がったり、澄んだ空気の中で目一杯たのしんだ。

最後の夜。この旅で感じたことを話し合う。生まれて初めてクマの気持ちになったこと。マイペースな自分を尊重してくれたみんな。思いかえすほど、言葉がうまく出てこない。だけど、自分の気持ちをまっすぐ伝えようとした。



最終日。9人は、それぞれ元の場所へと帰る。

でもきっと、地面に落ちている木の実からリスの存在を感じたり、夕暮れ時には、ムササビの起床を時々思い出すだろう。

そして夜には、深い森の中をクマやイノシシの家族が歩く姿を思い浮かべるかもしれない。

つい、この世界は自分たちだけだと錯覚してしまうけど、この旅で、同じ時間に数えきれない日常が息づいていることに気がついた。そして、その日常を守るために奮闘する人たちがいることも。

さあ今日も、かけがえのない日常をはじめよう。





ゆうか

(鹿児島県出身・18歳)

参加したきっかけは？

インスタのストーリー広告で出てきて、5回目くらいに応募しよう！と決めました。

もともとボランティアに対して興味があったこと、自然に興味があったので、今回の旅に参加したいと思いました。

一番楽しかった瞬間は？

色々な楽しい活動があったけれど、バスに乗っているときに修学旅行みたいで楽しかったです。とにかくずっとおしゃべりしていました。

みんながわたしの出身の鹿児島県について興味津々で話を聞いてくれて、嬉しかったです。

旅で印象的だったこと

ピッキオの職員の玉谷さんのお仕事の姿勢。

どنگりの豊凶調査を一緒にしていたとき、玉谷さんが、木の実を見つけると笑顔になって、無邪気によるこぼれていて。本当に真剣にクマと人のことを想ってお仕事されているんだと。

大人になったら、心から笑顔になる回数が減るのかなってなんとなく思っていたけど、そんなことないのかも。将来の夢はまだ決まっていないけど、わたしも玉谷さんのように、楽しく笑ってお仕事に打ち込めたらいいなあって思いました。

旅で変わったこと・得たこと

妹と喧嘩しそうになっても、あまり感情にまかせて怒らなくなりました（笑）。怒りが湧いてきた時に、「でもこんな時、旅するボランティアのみんなだったらなんて言うかな」って一呼吸おいて、ちょっと考えるようになりました。

旅ボラでいろんな人の価値観に触れたから、自分の気持ちが前より少し優しくなって、他の人の気持ちも、より一層考えられるようになった気がします。

応募を迷っている人へ

人生変わります！

わたしは鹿児島育ちで。大学もこのまま地元の指定校に行って、ずっと地元で生きていこうと思っていました。

でも、今回の旅をきっかけに、もっと広い世界に行って、もっとたくさんの人に会って、話して、たくさんの景色を見たいと思うようになりました。



参加したきっかけは？

大学受験期からずっと、「大学行ったらやりたいことリスト」を作っていて。行きたいところ、買いたいもの、やりたいことの3つに分けて書いているんです。

そのリストに「ボランティアに参加する」、「山に行く」って書いていたので、今回の旅はぴったりだ！と思い、参加することにしました。あと、元々川沿いの公園の清掃や、キャンプ場の宿泊小屋のボランティアをやっていたので、ボランティアが身近な印象だったこともあるかもしれません。

この旅で印象的だったこと

カーリング会場で出会った、デフリンピックを目指している大人の人たちとの出会い。

手話を使って話しかけに行ってみました。一人だったらできなかったかもしれないです。でも、今回は、旅ボラという安心して戻れるひとつのコミュニティがあったから、そして旅という非日常空間だったから、積極的に話を聞きに行って、コミュニケーションがとれたのだと思います。

もりけん

(大阪府出身・18歳)





旅ボラに参加して良かったこと

新しい人との出会い。

知らない人と、東京駅で急に出会って、4日間過ごしたら、帰る頃には大好きになっていて、ちょっと寂しくなって。僕は幼小中ずっと基本的に少人数で、ほぼ一緒のメンバー。高校も三年間でめちゃくちゃ楽しかったんですけど。今回の旅ボラは、4日間だけなのに、出会った人たちとの思い出の濃さが、それに全然劣らないというか。

ずっと一緒に、ずっと共同作業して、ずっと笑って、とにかく、ずっと楽しかったです。

応募を迷っている人へ

バイトや部活などで忙しい人も多いかと思います。僕もそうでした。

しかし、バイトや部活、日常では得られない、新しい出会い、体験、発見がこの旅ボラにはありました。だから、参加を迷っているみなさん、そして過去の応募を迷っていた自分にむけて、「予定無理やり空けてでも、行きな！」って言いたいです！





りりこ

(神奈川県出身・22歳)

参加したきっかけは？

インスタのストーリーに流れてきて知りました。ボランティアや社会貢献はずっとどこかでやってみたいとは思ってたけど、何していいかわからなくて。人生1回くらい経験値になるしと思って応募しました。

あと、実家で犬を飼っていて、動物が好きだから、動物がテーマなのも惹かれました。社会人3年目になって、ずっと都内でパソコンに向かう毎日だったので、自然に触れ合いたかったのもあります(笑)

この旅できづいたこと

クマに荒らされないようにするゴミ箱があるんだということやクマのために木の実の数を調査してる人がいることを初めて知りました。

あと、ムササビを見たことで家に帰ってからも「日没後はムササビの時間だ！そろそろ飛ぶのかな」って思うようになりました。日没なんてこれまで気にしたことがなかったのに、今はムササビを思い出すし、木の実を見たらクマのことを思い出すと思います。

この旅で変わったことは？

ボランティアのイメージ。旅行だと体験できないことや選択しないことに出会えたのが良かったです。カーリングも、ムササビも、野鳥観察も。いままでの自分の世界観が広がりました。自分で選ぶとどうしても偏ってしまうけど、これまで経験したことないことを経験できる機会になったのがとても良かったです！ボランティアといえば草むしりやゴミ拾いのイメージでしたが、いろんな活動があるし、みんなでやったからこそ、そんなに大変じゃなかったです。楽しいの方が勝ちました。修学旅行みたいな！



うれしかったことは？

みんなに会えたこと。男子が率先して重い荷物をもってくれたり、声をかけあったり。自由時間にタクシーつかまらなくて結構歩くことになって。「でもみんなで歩いた方が楽しくない？それも思い出じゃん」と言い合って歩いたのがすごく楽しかった。



応募を迷っている人へ

普通じゃできない経験をたくさんできて、新しい仲間と出会える。有給を取る価値はある！

参加者の声

自分とは違う考えや生き方をしてきた人に出会い、また、物事に挑戦をするということへのハードルを下げることができた。

果てしないほど
楽し過ぎた。

旅ボラ、どうだった？

旅の行程も仲間も
全て最高でした

観光やアクティビティを楽しむことができ、その中でボランティアにも参加できたのは良かった。また普段経験できない事を経験することができて思い出になった。

木の実の調査です。自然の中で癒しを感じながらみんなでお喋りしつつ山を登って、たくさん実っている木を見つけるととにかく嬉しかったです。

ぜんぶ！！

思い出に残っている体験

ゴミ箱清掃後にみんなで囲んだお鍋がとても美味しかったことです！！

クマの爪痕やピッキオさんのクマに対する姿勢を見て、実物のクマは見ていないけど存在を肌で感じ取れた気がします。

優しくなれたと自分でも思えるくらい、人として成長できて、視野や価値観を広げる事ができました。

唯一無二の経験ができるところ！

どんなところが旅ボラの魅力ですか？

お金があまり無い学生や新社会人でも参加しやすいこと。

参加しなければ出会えない仲間に出えるところ！

自分が知らない世界を知れる。自分がどんな人間なのか再確認できる。

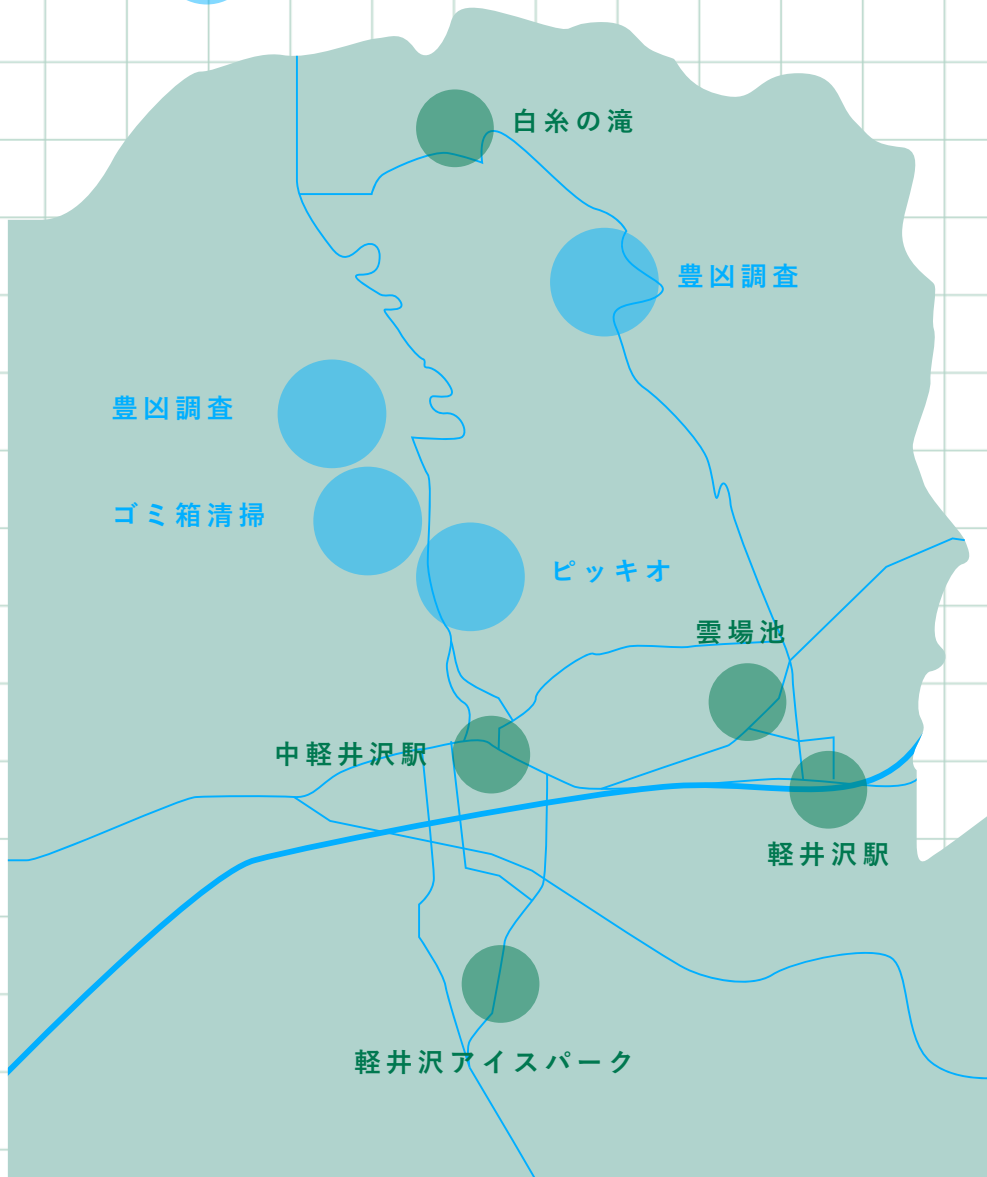
Map



活動場所



立ち寄りスポット



1km

Nagano Karuizawa

Program

Day 1

軽井沢駅 到着

昼食、ラジオ出演

カーリング体験

雲場池 散策

Day 2

ネイチャーツアー

野生動物対策ゴミ箱の清掃

ムササビウォッチング

Day 3

木の実の豊凶調査

白糸の滝 散策

自由時間

Day 4

軽井沢駅 出発



旅するボランティア

Report vol.5

長野 軽井沢

Nagano Karuizawa

緑が薫る森の中で、
動物と共に暮らす旅。

Photo by Haruya Tanaka

